



ゾーンディフェンス禁止のご紹介

今年度日本バスケットボール協会の改革の一つとして15歳以下のゾーンDF禁止というルールがあります。ここではゾーンDF禁止のルールについて紹介します。

【ゾーンDF禁止にいたる背景】

- ・世界の強豪国では16歳以下のゾーンディフェンスを禁止しており、国際バスケットボール連盟（FIBA）もミニバスでは禁止している。
- ・日本では、12歳以下（U-12）のチームの90%以上がゾーンディフェンスを導入しており、中学校の約70%がゾーンディフェンスを中心に試合を組み立てている。
- ・15歳まではコーディネーショントレーニングや基礎的なスキルを学ぶべき年代であるが、ゾーンディフェンスというシステムを主に指導されるため、オフェンス、ディフェンスの両面において1対1の対応力が不足している。

マンツーマンディフェンスの基準①

各種競技会において、ゾーンディフェンスの判定はマンツーマンコミッショナーが行うこととなります。
マンツーマンディフェンスの基準は下記の案を前提に精査を行い、公式ルールとして発行します。

ゾーンディフェンス禁止に伴う、マンツーマンディフェンスの基準(案)

ゾーンディフェンスの判定は「大会主催者が任命したマンツーマンコミッショナー」(以下“責任者”)が行う。

1. マッチアップ

全てのディフェンス側プレイヤーは、マンツーマンで、オフェンス側プレイヤーの誰とマッチアップしているか明確でなければならない。このマッチアップルールはマッチアップエリア(3ポイントラインを目安とする)内では常に適用される。ディフェンス側プレイヤーのアイコンタクト、言葉のサインまたは手のサイン(指さしすること)により、明確に誰とマッチアップしているかが、責任者にわかること。



2. プレスディフェンス

チームがプレスディフェンスを採用した時(フルコート、3/4コート及びハーフコート)でもマッチアップルールの基準に合致すること。

注意点:様々なゾーンディフェンスまたはコンビネーションディフェンスは、マッチアップエリア以外でも不正である! プレスディフェンス採用時のルールは以下の通りである(フルコート、3/4コート及びハーフコート):

- ・ボールを持っている選手をトラップすることは許されるが、ローテーション後のピックアップを確実にし、責任者にマッチアップが明確にわかるように行うこと。

編集後記

バスケットボールとは違うスポーツですが、ラグビー日本代表がW杯で活躍し、五郎丸選手をはじめ大きな話題となりました。日本代表を率いたエディ監督が大切にしていることの一つが「強みを知り、強みを伸ばす」というものだそうです。『体格が最もものを言うスポーツのラグビーにおいて、体が小さい日本人はこれまで世界の強豪にはまったく歯が立たなかった。だがエディーさんは、日本人の強みを徹底的に観察し、それを伸ばすことで世界の強豪相手にも打ち勝つ集団へと進化させた。エディーさんが考える、日本人の強み。それは、どんな過酷な練習にも耐え、向上心を持ち続ける“勤勉さ”だ。エディーさんは、日本人の勤勉性を生かして、早朝6時から練習を始め、選手

を徹底的に追い込むことで、世界一タフなチームを築こうとしている。「日本人の強みは、真面目で忍耐力があることです。それは間違いなく世界一です。他の国の選手なら、とっくに逃げ出しているでしょう。」(NHKプロフェッショナルより)エディ監督の言葉を聞いていると感ずるところがありますが、「真面目に目標に向かって一生懸命努力する」ことが当たり前だと大事だ感じました。バスケットボールも体格がものを言うスポーツです。しかし、ラグビーのように日本人が世界で活躍するのも夢ではないと思います。高山からいつかは…私も自分にできることを真面目に頑張っていこうと思いました。(Y.Y)



夏休み学童保育児童バスケット教室

「バスケットボールの楽しさを知ってほしい」という願いのもと、夏休みに各小学校の学童児童を対象にバスケットボール教室を開催しました。バスケットボール教室では、指導者と東山中学校のバスケットボール部員を中心に小学校低学年の児童とハンドリングやシュート練習を行いました。バスケットボール教室が終わったあと児童は「シュートを決めるのが楽しい!」「難しいけど面白い!」と楽しそうに語ってくれ、指導して下さった大坪先生が「もっとバスケットやってみよう!」と聞くと全員が「はい!」と元気よく手を挙げてくれました。一緒に活動した中学生も「はじめは緊張したし、教えるのは難しかったけど、一緒になってやってみると楽しかった。」と話してくれました。低学年の児童は普段の生活の中でなかなかバスケットボールにふれる機会はありません。こういった機会が高山市のバスケットボールの普及につながると思います。

TAKAYAMA AMATEUR BASKETBALL ASSOCIATION

飛騨高山のバスケットボールを盛り上げよう!

編集・発行:高山市バスケットボール協会

tabba.jp

高山市バスケットボール協会は

賛助会はじめ協会を支えてくださる皆様のお力添えをいただきながら、

地方が疲弊化する中で若者にバスケットボールを通じて

夢と誇りを持って頂き、

この地域を支える大きな担い手としての存在を希望しながら

これからも協会活動に邁進していきます。





コンバースクリニック

平成27年9月26日コンバースバスケットボールクリニックとして鈴木貴美一監督（元日本代表ヘッドコーチ、現アイシンシーホース三河（NBL）ヘッドコーチ）を招いて市内の中学生を中心にバスケットボールクリニックが開催されました。クリニックでは、ドリブル、シュート、パスを中心に丁寧に教えていただきました。鈴木監督から「私は高校からバスケットをはじめ、最初はレイアップシュートも入らないくらい下手くそだったんだ。君達は中学校からは始めている、君達は上手くなる可能性が無限にあるから頑張れ！ここから将来の日本代表ができることだってあるぞ！」と声をかけられ子どもたちは生き生きとプレイしていました。一昨年度は小野秀二監督、今回は鈴木貴美一監督と今の日本を代表する一流の指導者に教えていただける機会があり、高山の子どもたちは本当に恵まれていると感じました。



NBDL 2015-2016 in TAKAYAMA

取材して下さった桐井さん



平成27年11月21日（土）にNBDL2015-2016 in TAKAYAMAが飛騨高山ビッグアリーナで開催されました。二年ぶりの大会ということもあり、この日を楽しみにしていた大勢の観客が観戦しました。

前座試合も行われ、小学生低学年の子供たちが一生懸命バスケットボールを追いかける微笑ましい姿に会場全体が注目し、シュートが入る度に会場全体が大きな歓声と笑顔に包まれました。ミニバス紅白戦・中学生オールスター東西対決では、日頃の厳しい練習の成果を発揮しようと、選手たちは鋭刺としたプレーとそのテクニックで観客を魅了し、大きく会場を沸かせました。

豊田合成スコープイオンズとアースフレンズ東京Zとの試合は、鍛え上げられた両チームのハイレベルな攻防が繰り広げられ、子供たちにとって大変勉強になり、良い刺激になりました。試合は延長戦に突入、1ゴール差で試合が決する大接戦となりました。接戦の余韻さめやらぬまま、大きな盛り上がりの中大会の幕を閉じました。



1	2	3
4	5	6
7	8	
9		

1・2・3
飛騨地区小学生オールスター戦
4
飛騨地区中学校女子オールスター戦
5
アナウンスの皆さん
6・7
飛騨地区中学校男子オールスター戦
8
豊田合成 v s 東京Z
9
試合前セレモニー

